

評価確定日:2020年3月19日(木)

行政報告日:2020年3月23日(月)

(別紙2-4)

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 泰成	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設11年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にしながら維持、改善していくこと、訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	南雲未来		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	1人	3人	1人	0人	4人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度に向けてインフォーマルサービスを地図にまとめていく。自宅で一人度過す方に傾聴ボランティアさんがいることを発信していく。 ・家族や地域の方に小規模多機能についての勉強会を開き、地域資源として施設の在り方を伝えていく。 ・事例検討を一般職員を交えて運営推進会議の中で行っていくことを検討していく。 ・新オレンジプランの認知症カフェの位置づけについての勉強会を行うことで、認知症カフェのあり方を見直していく。 	<p>毎月第2水曜日に開催している「認知症カフェ」の中で、四半期に一度勉強会を開催している。1回目は認知症カフェについて、2回目に地域密着型サービスについて、3回目認知症について、4回目認知症の方への対応を予定している。お客様自身や地域の方も関心を持って聞いてくれる方が増えてきており、施設のことや利用するお客様について理解を深める機会になっていると思われる。</p> <p>新たに、二人掛けソファ、一人掛けソファ、パーソナルチェアを新たに設置し、お客様の憩いの場となっている。各テーブルにお茶セットの常設はしていないが、キッチンカウンターに常設し、歩行がしっかりした方など他の方の分もお茶を用意し、思い思いに過ごしていただけている。</p>	<p>応えようにも内容がよくわからず、答えようのないことが多い。次年度が取り組みの結果(企画書の開示や職員数、活動結果等)を事前に情報提供してもらい、施設で何をしているのかわかるようなものを用意してもらいたい。</p> <p>センター方式シートが何かわからない方もいるため、どのようなものなのか、行うことでどんな効果があるのか等、説明が必要。また、情報が集めきれないという意見が多いことから、運用方法についても検討が必要と考える。</p>	<p>センター方式シートの活用方法や実施する事でどんな効果があるのかなど、もう一度職員全体に説明を行う。</p> <p>地域のサロン等の理解を深めるために、湯沢町の認知症ケアパスを有効活用し、インフォーマルサービスについて理解を深めていく。</p> <p>地域保健師や家族、地域の方との関わりを増やし、よりお客様に寄り添える支援の方法を見出すために、担当者会議を活用する。</p>
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ソファを購入し更にお客様同士がくつろげる場にフロア内のレイアウトを変更していく。 ・各テーブルにお茶セットを置き、いつでも自由にお茶が飲めるようにする。 	<p>新たに、二人掛けソファ、一人掛けソファ、パーソナルチェアを新たに設置し、お客様の憩いの場となっている。各テーブルにお茶セットの常設はしていないが、キッチンカウンターに常設し、歩行がしっかりした方など他の方の分もお茶を用意し、思い思いに過ごしていただけている。</p>	<p>気の合わない方もいるだろうから、居場所が沢山ある事は良いと思う。</p> <p>事業所の施設については、いつのタイミングでしているのかわからない。閉じ込めることはしていないと思う。</p> <p>来ることに慣れた為、入りづらさは感じないが、一般の人と同じ感覚かどうかはわからない。</p>	<p>今後も、お客様に居心地の良さを感じていただけるような空間作り(季節に合った設えや環境整備)を行っていく。(家具のレイアウトや掲示物、匂い、音など)</p> <p>外からのお客様が入り易さを感じていただけるように、玄関前の案内表示の変更や入ってこられた時にお客様はもちろん、職員同士不快な思いなど与えないように接遇勉強会を開催する。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症カフェに合わせてサービス特性についてや、認知症についてなどミニ講座を行うことを年間スケジュールや毎月のチラシに載せ、地域の方に施設や認知症について知っていただく機会を設けていく。 ・地域の方から周知されている認知症カフェの場を最大限に活かし、地域とのかかわりを深めていく。 	<p>毎月第2水曜日に開催している「認知症カフェ」の中で、四半期に一度勉強会を開催している。1回目は認知症カフェについて、2回目に地域密着型サービスについて、3回目認知症について、4回目認知症の方への対応を予定している。口コミで認知症カフェの開催が広がり、チラシをもらいに来設される方が増えてきている。</p>	<p>町全体で見ると、この施設を知らない人は多いと思われる。「健康倶楽部」「雪割草」どちらが名称かわからない人も多い。</p> <p>地域のサロンなどに向いて、施設を知っていただく機会を設けてはどうか。年に1回は保健師たちが呼ばれて勉強会しているため、そういった機会でも活動内容に合うものがあれば、そこで施設のPRをしてもよいと思う。</p> <p>地域行事に参加しているというが、職員の顔が分からないためよくわからない。していることはもっとアピールした方がよい</p>	<p>毎月発行する広報誌等で活動報告を写真付きで行い、地域との関りを家族にも伝えていく。2か月に一度は地域に施設の広報誌を回覧し、活動を広く周知する機会を作っていく。</p> <p>包括支援センターがサロン等から依頼される「健康講話」等、協力できる題目の時には声をかけてもらい、積極的に地域に向き関わりを増やしていく機会を作る。</p>
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブとのかかわりを増やし、今後も草取りボランティアなど継続した関係性の維持に努めていく。 ・地域サロン地区内に小規模利用者がいるときには、一緒に参加し、地域とのつながりが継続できる関係性の維持に努める。 	<p>今年度6月に地域の老人クラブの方から、草取りボランティアに来ていただいた。その中の多くの方が認知症カフェにも参加している方たちで顔見知りの関係となり、秋には無花果の収穫もされている。</p> <p>小規模の利用が始まったことで、初めのうちはサロン等に参加されているが、そのうちに辞めてしまわれる方もいるため、参加できるうちは参加していただけるように、サロン担当者との関係も含めて検討が必要と考えている</p>	<p>活動の実績を地域の方に知られていないのを感じる。広報ゆざわに活動を載せてはどうか。月に1回出しているお便りを町内で回覧してはどうか。活動内容を知らせる機会がないのは残念に思う。</p> <p>何かをしたとか、何をやっているのかとか会議の時に添付資料で出してもらえるとよいと思った。それがあればよいと思った。事業所としての活動報告をしてもらえるとよいと思う。</p> <p>回覧版に挟んでもらえると知名度も上がるし、良いのではないかと</p>	<p>独居の方など、本人からの要望があった時だけでなく、必要と思われる時には、買い物など必要な支援を行い、地域で暮らし続けられるための提案を適宜行っていく。</p> <p>認知症サポーター養成講座の依頼があった時には、キャラバンメイトを派遣し、認知症の方が地域で安心して暮らしていく事ができる環境作りを行っていく。</p>
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・小多規での看取りについて、今後施設での看取りを検討していきたいため、運営推進会議の場の中で話し合いを進めていく。 ・毎回一言でもいいので参加者に発言してもらおう時間を作っていく。(テーマを決めたり、近況報告など) 	<p>毎回、会議に参加していただいた方から一言ずつ、感想を言ってもらっている。会議中は特に発言はなくても、会議の感想や全体への意見をいただくことで会議が活発になったと思う。</p> <p>在宅でお看取りを希望される方がおらず、積極的に議題として出すことが出来なかったが、今後のことも考えるためにも、事前に検討していく必要があると考えている。</p>	<p>小規模の別の施設でも行っているのかわからない。</p> <p>活動内容を伝えるためにも、運営推進会議を活用していければよいのではないかとと思う。</p> <p>会議に出たときには今後も継続して意見は出し合っていた方がよい。</p>	<p>前年度の外部評価で確定した改善計画に関する、進捗状況を毎回の会議で報告を行い、会議役員に改善状況を確認してもらおう時間を作る。</p> <p>会議の皆さまや、老人クラブ会長等から情報提供していただけるように、会議で発言しやすいように議事内容を精査する。</p> <p>会議体では事故等の報告だけでなく、施設で行った行事や取り組みなどを可視化した情報も報告していく。</p>
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の指定を受けるために、関係行政と連携を取り計画的に話を進めていく。 ・地域消防団との連携を深め、総合防災訓練だけでなく、行方不明探索訓練への協力も依頼し地域の見守りの目が広げられる関係性を作っていく。 ・地域消防団の方から次年度より運営推進会議のメンバーにも入っていただくよう依頼していく。 	<p>6月に湯沢町と福祉避難所指定の協定を結ぶことが出来た。今年も地域消防団から防災訓練に協力を得ることが出来たが、行方不明探索訓練までは依頼できなかった。防災訓練の避難誘導を通じて、施設のお客様の状態や顔など知っていただく有効な機会にしていく必要がある。</p>	<p>火災の時にはどこに避難するか決まっているのか。</p> <p>自主防災組織を作っていた方がよい。地域の自主防災組織についてもアプローチした方がよいのではないかと。</p> <p>隣近所の情報もわからない状況になっているため、地域全体での訓練の必要性があると感じる部分もある。</p>	<p>AED設置場所である事を地域の方に周知し、福祉避難所としてだけでなく、緊急時には頼っていただけることを広めていく。</p> <p>災害備蓄品の品目・量、保管場所をリスト化し全職員に周知する。</p> <p>次年度の運営推進会議は施設の防災訓練実施日に行い、施設での訓練の様子やお客様、地域のことを知っていただく機会にしていく。</p> <p>子供110番への登録を行い、地域との協力体制を強化する。</p>